

故 杉田浩一先生を悼んで

日本調理科学会

会 長 和 田 淑 子



日本調理科学会名誉会員・杉田浩一先生には去る平成15年1月11日、ご逝去になりました。享年73歳、学会の名誉会員になられてわずか4ヶ月余りのことであり、学会誌編集副委員長としても現役ご活躍中での訃報となりましたことは誠に残念に存じます。

ここに謹んで哀悼の意を表し、会員の皆さまとともに先生のご冥福をお祈り申し上げます。

先生は1954年に東京農工大学農学部農芸化学科をご卒業後、1960年同大学農学部農学専攻科農芸化学専攻を修了されました。大学ご卒業の1954年には栄養士養成施設の東京栄養食糧学校に赴任され、その後1958年から1996年の38年間、昭和女子大学において講師、助教授、教授として調理学を中心に教育・研究に携わってこられました。ご退職後は文教大学女子短期大学部などで非常勤講師をつとめられる傍ら、各種文化財団の理事、顧問、研究助成選考委員として、また、地方での講演などを通して、調理科学の普及活動にも精力的につとめてこられました。

先生は本学会設立の源流となった調理科学懇談会と、その流れを引き継ぐ本学会前身の調理科学研究会の会員として、さらに、日本調理科学会設立後の昭和48年から平成7年の23年間、学会の常任理事、平成6年～9年関東支部長、平成8年～11年副会長として、学会の発展に尽力されてまいりました。学会の規定作り、学会誌編集、特別設置委員会などにも関わられ、学会発展の基盤作りをなさいました。日本家政学会の一部会であった調理科学研究会が学会として独立するまでの一連の発展経緯については、先生が刊行委員長をつとめられた『創立30周年記念増刊号』—調理科学 Vol.30—の中で、“学会の足跡”、“関東の調理科学懇談

会”、“関東支部の生い立ちと発展”と題した3編をご自身でご執筆になられており、先生が本学会とともに歩まれたことを十二分に知ることができます。

先生の長年に亘る学会への数々のご貢献に対し、平成13年度日本調理科学会総会(於大妻女子大学)では功労賞を受賞され、また、平成14年度学会総会(於大阪市立大学)では名誉会員の称号が授与されました。

昨年の名誉会員授与式でお目にかかりました際に、「少々体調を崩していますが、今日はとても嬉しい日です」と、にこやかにお話しくださいました先生のお姿が今も臉から消えません。

先生の調理学分野におけるご活躍は多岐に亘りました。とりわけ、科学的・体系的でわかりやすい調理科学書や調理文化に関するご著書には定評があり、調理学の教育・研究に携わる会員は、かつて先生の記された『調理の科学』(医歯薬出版1964)をはじめ、『この科学』(柴田書店1971)、講座食の文化3『調理とたべもの』(味の素食の文化センター1999)など、座右の書とされた方も多いのではないかと存じます。先生が長年、調理学に対して一方ならぬ思いを込めておられましたことをご家族の方からもうかがいました。

先生といろいろな仕事をご一緒にさせていただく機会がございましたが、先生は常に冷静で的確なご判断とご助言を下さいましたし、何よりも相手の立場を思いやるやさしいお人柄でありました。まだまだご指導をいただきたいと願っておりました矢先のことであり、残念に存じます。ここに改めて、先生の本学会に対するご貢献に感謝致しますとともに、先生のご遺志をつぐべく学会の更なる充実・発展に努めてまいりたいものと考えます。

先生 ありがとうございます。